

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（柏崎刈羽原子力発電所7号炉 設計及び工事の計画）【241】
2. 日時：令和2年6月29日 10時00分～16時00分
3. 場所：原子力規制庁 9階B会議室
4. 出席者（※・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

植木主任安全審査官、津金主任安全審査官、宇田川安全審査官、  
服部安全審査専門職、堀野技術参与、山浦技術参与

事業者：

東京電力ホールディングス株式会社

原子力設備管理部 課長 他9名※

## 5. 要旨

(1) 東京電力ホールディングス株式会社から、柏崎刈羽原子力発電所7号機の工事計画認可申請書のうち、耐震性及び強度に関する説明書について、令和2年3月26日、6月18日、6月24日及び6月25日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

### 【コリウムシールドの耐震性についての計算書】

- 「表2-1 構造計画」の計画の概要について、概略構造図に示される縦材、水平材、ガセットプレート、ベースプレート、鋼棒等を整理して説明すること。また、「5. 2. 4 (1) 地震荷重」に示される周期性について説明すること。

### 【原子炉格納容器の地震時のスロッシングに対する考え方について】

- 地震応答解析モデルでの原子炉格納容器本体と原子炉本体の基礎に対するサプレッション・チェンバのプール水質量の付加方法を明確にした上で、スロッシングによる荷重に対する評価の保守性を整理して説明すること。
- スロッシングによる固定質量及び自由質量による荷重の大小について、検討に用いた設計用床応答曲線を用いて整理して説明すること。
- スロッシングによる設備への影響について、サプレッション・チェンバ内部に設置される設備を網羅的に抽出した上で、影響評価結果を説明すること。
- スロッシングによるアクセストンネルへの影響が小さいことについて、スロッシング時の露出量と衝撃力の観点等から説明すること。

**【クラスMC容器における一次＋二次＋ピーク応力強さの評価の取り扱いについて】**

- 新設の格納容器貫通部に対しては疲労解析結果が不要となる理由を整理して説明すること。

**【火災防護設備の耐震計算の方針】**

- 「図2-19 消火配管（電源盤・制御盤消火設備）の概要図」に示されるパンチングトレイについて、その構造、固定方法及び内部の銅管の拘束具合を整理して説明すること。

**【火災防護設備 耐震計算書耐震条件について】**

- 「表-1 パターン整理表」に示される「設計震度の考え方」及び「適用した設計用最大応答加速度」について、「設置された位置を上回る最大震度」と「設計用床応答曲線Ⅱ」との違いを整理して説明すること。

**【ボンベラックの耐震計算書】**

- 「図3-7 ボンベラック（中央制御室床下フリーアクセスフロア消火設備）の解析モデル」等に示される基礎ボルトの拘束について、モデルにより回転3方向の扱いが異なることを整理して説明すること。

**【消火配管の耐震計算書】**

- 「鳥観図 R-B2F-21-2」に示される相対変位について、建屋境界を示した上で入力方法を整理して説明すること。
- 「4. 2. 3 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果」に示される二次応力について、発生要因を整理して説明すること。

**【耐火隔壁の耐震性についての計算書】**

- 「表4-7 設計用地震力（設計基準対象施設）」及び「表4-8 設計用地震力（重大事故等対処設備）」について、他設備の耐震計算書と同様に、計算に用いた水平及び鉛直震度を整理して説明すること。

(3) 東京電力ホールディングス株式会社から、本日の説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6. その他  
なし